

## 『平成30年度 第1回 エヌ・シィ・ティ放送番組審議会』議事録

日時：平成30年9月25日（火）10:30～13:00

場所：株式会社エヌ・シィ・ティ本社3F 大会議室

### 1、開会の挨拶

株式会社エヌ・シィ・ティ 代表取締役社長 今泉道雄

今回は上期の自主制作番組についてご審議いただきたくお願い申し上げます。

NCTの上期を振り返ると、昨年度中に伝送路の光化工事が完了し、見附市と三条市栄エリアへエリアを拡大しましたが、おかげさまで加入者数も計画通りに伸びているところではあります。

更に10月からは小千谷市もエリアとなる予定で、今年度中には総接続数5万世帯を目指しているところではあります。

自主制作番組については、越後3大花火中継や高校野球地区予選中継、4K放送、道路情報カメラ増設など新たな試みを実施してまいりました。取り組みに関しての詳細報告はこの後ご説明させていただきます。

いずれにしても地域の皆様に喜んでもらえる番組づくりを目指し、NCTがなくてはならない会社になるという思いで取り組んでいるところではあります。

今日は忌憚ないご意見を頂戴したくお願い申し上げます。

### 2、番組審議委員長の挨拶

エヌ・シィ・ティ放送番組審議会委員長 長尾 弘 様

平成元年にケーブルテレビが長岡に創業した当時、どういう会社になるのか…と思った記憶がありますが、総世帯の3分の1にあたる5万世帯に手が届く企業に成長したのは、大変喜ばしいことだと思っております。色々な場面でNCTの名前を見たり存在を感じたりすることができるというのが最近の実感です。番組制作も含め全体を通してNCTが健闘していると感じております。

益々、地域のためになくはない、信頼のおける放送局になっていただきたいという思いを込めて、今日は意見交換をしたいと思っておりますので、忌憚のないご意見を宜しくお願いいたします。

### 3、出席状況確認、番組審議会開催概要について

事務局 東條 真一

#### 4、報告事項 放送番組について

エヌ・シィ・ティ地域情報部次長 野本隆行

#### 5、審議

##### ◎番組に関する意見交換

##### (1) 『花火を見るならエヌ・シィ・ティ』

- ・視聴者の感想を見てもカメラワークの上手さはこれまでの経験あつてのものだと思う。
- ・NHKの中継もかなり好評だったと聞いた。やはり花火はキラコンテツだと思う。これからもJ：COMをはじめ、全国に長岡の魅力を発信して欲しい。
- ・NHKはスポンサー名を入れることができないが、地元の人たちにとってはそれが入るのが嬉しい。
- ・越後3大花火中継は素晴らしい。会場に行きたいけれど行けない人にとっては大事な中継だと思う。
- ・長岡花火の際のコミチャン多チャンネル編成も方向性がすみ分けされていてよかった。
- ・中継で花火を見た人に対して「生で見たい」という現場への誘導になるはず。
- ・柏崎花火のオープニング映像が素晴らしかった。
- ・余計な演出がなく臨場感あふれる映像だった。臨場感を保ちつつ長時間見せるための工夫を毎回検討して欲しい。
- ・迫力は栈敷席が一番だと思うが、花火の全体を見ることができない。やはり長岡花火のスケールを伝えるのは引きカメラの中継映像だと感じた。

##### (2) 『高校野球地区予選見るならエヌ・シィ・ティ』

- ・長岡市民は高校野球への関心が高いので中継はいい取り組みだと思う。
- ・高校野球は一つの文化である。事前の出場校紹介も良かった。
- ・他のケーブルテレビ局と連携して全試合放送するのはよい取り組み。もっとPRした方が良いと思う。
- ・実況は野球を知らない人にとっては大事。
- ・実況できる人材を確保するのは難しいだろうが是非続けてほしい。
- ・全体を映しているので選手の動きがよくわかる。関係者にとってもいい記念になる。

### (3) 『4K見るならエヌ・シー・ティ』

- ・地域の資源をアーカイブ的に撮ってほしい。
- ・新潟県には4Kに適した自然や景観がたくさんある。地域のコンテンツとして美しさを伝えてほしい。
- ・ハイビジョン放送との違いは？  
⇒キレイだが大画面でないとわかりづらい。
- ・4Kテレビは2020年に向けて需要が高まるだろう。
- ・モニター普及率も低く、民放でも番組放送が難しいのであれば、パイオニアとしての取り組みだと思う。積極的に制作して欲しい。

### (4) 『情報カメラ見るならエヌ・シー・ティ』

- ・防災面で大きな役割を果たしていると思う。
- ・視聴者は関心があるだろうからカメラをもっと増やしてもいいのでは。
- ・情報、防災、防犯と多岐の役割があると思う。可能な限り増設しても良いと思う。
- ・道路カメラだけでなく河川カメラも編成に入れてはどうか。  
⇒警報が出たときは映像を河川カメラに切り替える対応をしている。
- ・アオーレ長岡や長岡駅の方向を映すなど、人が多く集まる場所をとらえてもいいと思う。
- ・賑わいのある場所を映していると、出かける時の参考になる。
- ・大雪の際のカメラの効果は大きい。どこが渋滞しているのか直接見ることができるのは更なる渋滞拡大の予防にもなる。
- ・三条の台数をもっと増やしてほしい。  
⇒地主交渉が課題。

### (5) その他

- ・審議会前に配布される番組資料DVDについて、もっといろんな番組が欲しい。  
⇒次回から、ご案内する番組数を増やします。
- ・番組の中で協力してくれた団体や企業は積極的に名前を表示してあげて欲しい。

## 6、閉会挨拶

エヌ・シー・ティ 常務取締役 若月栄弥

テレビは戦後、メディアの王様と言われてきました。しかし、インターネットの普及によりその状況が危うくなっているのは皆さんも認識されていると思います。最近のメディア接触率調査でも特に若年層のテレビ接触率が下がっています。そうした中で、どうした

ら見てもらえるのかを考えるのが大事であり、今回の審議会内容も『地域の加入者が見たいのは何か』を核として取り組み内容を挙げさせていただきました。

先日NHKと民放のコラボ企画の放送を拝見しました。その中で印象に残ったのは「映像が訴える効果…絶対的なシーンの時はアナウンサーは喋るな」ということです。これは正にケーブルテレビが得意とする『現場の様子をありのままに中継する』ということに等しいと感じました。

変化していく人口減の社会の中で番組の内容も変化していかなければなりません。都度、皆さまの意見をお聞きしながら、真摯な気持ちで地域の皆様の期待に応えていきたいと考えております。

本日は貴重な時間をありがとうございました。

以上